489. 広域放射線治療データベースの構築 (北海道放射線治療患者データベースについて)

Development of Radiotherapy Wide Area Database.
Radiotherapy Database for Hokkaido.

北海道大学病院放射線部 ○渡辺 良晴 藤田 勝久 山口 恵
(Yoshiharu Watabane) (Katsuhisa Fujita) (Megumi Yamaguchi)
国立札幌病院北海道地方がんセンター放射線科 西尾 正道
(Masamichi Nishio)

【目的】北海道放射線治療研究会は、設立以来で20年を経過し、北海道内のほとんどの治療施設が参加している。研究会の放射線治療患者データベースは北海道内の治療患者の内容を把握する目的から企画され、約2年間の検討の後1989年度から始められた。こんかい、5年間のデータの分析を行うとともに、広域データベースの持つ問題点に関して検討した。

【方法】データベースは準備期間の間に討論を重ねて内容を決定し規約を作成した。データの集計方法は、コーディング用紙に記入する方法をとらずパソコンを用いることとした。このため、一つの方法として患者登録用プログラムのひな型を作成し、患者登録を始める施設の参考とした。また、すでに患者登録を行っている施設については治療研究会データベースの項目を、追加・変更して協力をお願いした。

集計項目は、患者コード、年齢、性別、原発部位、治療方針、治療開始、治療装置、線質、治療部位、治療方法、総線量、照射回数、治療終了の13項目とし、コード表を作成した。施設単位での集計は行わないこととし、フォローアップのデータは除いた。データの集計は年度単位とし、各施設の治療患者登録データの中から上記のデータ項目だけを集計してフロッピーで郵送してもらいデータベースに入力し、一つのデータベースファイルとして管理することとした。

【結果】1989年度から1993年度の5年間の、北海道放射線治療研究会治療患者データベースの分析結果の一部を図1～図4に示す。図1に年度別登録データ数を示す。登録件数は累計で約17,000件に成っている。図2に治療患者の年齢・性別構成を示すが、性別により年齢構成が大きく違っていた。図3に治療方針の結果を示す。図4に使用した放射線の種類別の比率を示すが、4・6・10MVのX線が72%を占めている。各年度毎のデータの集計は、北海道放射線治療研究会雑誌に掲載している。

【考察】現在、北海道内では27施設で放射線治療が行われている。データベースから北海道内で行われている放射線治療の多様な分析が可能である。今回は示せなかったが、例としては原発部位毎の年齢構成、照射部位、照射方針、線量などが分析できる。また、北海道内の放射線治療の状態を把握するとともに、全悪性腫瘍患者の内放射線治療を受けている割合なども分析可能である。

このデータベースも5年が経過し、今後、JASTROが計画しているデータベースとの関係や今後の方向、参加していない施設への協力要請等を検討していく必要がある。

放射線治療患者に関する広域データベースは、多くの研究や報告がなされている。しかし、実際に動いているものは少ない。北海道治療研究会のデータベースは項目の限定、オプション化、入力を担当放射線技師が主体となって行う等により成功している数少ない例である。この様なデータベースを継続していくためには、参加各施設の協力が必要で特に治療を担当している放射線技師の協力が不可欠である。

参加施設 旭川医大病院、市立旭川病院、旭川厚生病院、道北病院、釧路日赤病院、市立釧路病院、帯広厚生病院、北見日赤病院、岩見沢市立病院、砂川市立病院、市立室蘭病院、室蘭日鋼記念病院、浦河日赤病院、市立函館病院、手稲溪仁会病院、市立札幌病院、札幌北楡病院、札幌恵佑会病院、札幌医大病院、国立札幌病院、北大病院 (順不同)

図1. 年度別登録データ数

図2. 治療患者の年齢・性別構成

図3. 治療方針の割合

図4. 放射線の種類別比率